

1月 絵本であそぼ！

■0歳児 『たまごのあかちゃん』



今月は、『たまごのあかちゃん』を読んできました。この絵本は、絵にとってもインパクトがあり、赤ちゃんが絵本に注目しやすいようです。「たまごのなかで…」 「でておいでよ～」と読むと、目はじっと絵を見つめ、耳を澄ましてことばを聞いているのがわかります。絵本の簡単なフレーズをまねっこすることが楽しくなってきた子どもたち。「でておいでよ～」と読みながら手を口元にもっていきくと、子ども達も手を動かして真似っこをして「よ～」返してくれます。それから、何か？という感じでたまごの絵に集中してページをめくられるのが待ちきれないように覗き込んできます。ペンギンのあかちゃんが、「ぴっぴっぴ」とでてくると保育士が「こんにちは」とちょっと頭を下げてみます。すると、子ども達も誘われて、頭を下げて真似っこします。くりかえし登場するたまごとあかちゃんに、嬉しそうに、手振りや身振りをしながら絵本の世界を楽しんでいます。

たんと読むのではなく、身振り手振りを入れたり、抑揚をつけて読んでいくと、子どもたちも、その絵本のキーワードをつかみ、その繰り返しの面白さを支えにしながら、絵本の中にはいっていきそうです。子どもなりに理解できる言葉を真似しながら身振りすることで、より言葉の理解を深め、絵本への能動的参加を促すと言われています。子どもたちが絵本を好きになってくれるように、そんなことを大事にしながら読み聞かせをしていきたいです。

◆1歳児 絵本『ツリーさん』

絵本「ツリーさん」は、大きなモミの木「ツリー」さんの元に、様々なオーナメントが集まってきて、どんどんにぎやかになり、最後は綺麗なクリスマスツリーになり、みんなの大好きなサンタクロースがソリに乗ってやってきます。小さい子でもクリスマスが楽しめるシンプルなお話です。

ある日、絵本「ツリーさん」を読み終わると、どこからともなく鈴の音が聞こえてきました。

「何だろう…」と最初は驚き怖がっていましたが、1人のお友だちが「サンタさん！」という「サンタさん!?どこどこ」と探していました。サンタさんが登場すると上から下までじーっと見て安心すると「サンタさんだー！」と大喜びでした。「みんながクリスマスツリーに飾りたいっていついたから、リースを持ってきたよ」「これみんなにプレゼント！」とみんなに渡してくれました。これには子どもたちも大喜び。リースにシールを貼って出来上がるとすぐにツリーに飾りに行ってきました。

絵本を読み聞かせし、場面を再現し遊ぶことで、子どもたちの心と言葉を豊かにします。これからもこんな体験をたくさんしたいと思っています。



●2歳児 絵本『クリスマスったらクリスマスさん』



クリスマスに向けて『クリスマスったらクリスマス』『サンタさんまってるよ』『さみしがりのサンタさん』などの絵本を読みきかせしてきました。サンタクロースやトナカイ、きれいに飾りつけされたもみの木の絵が出てくると目を輝かせ見ていました。

クリスマス会では、念願のサンタさんも来てくれて、喜んだり、びっくりしたりのあんずさん。サンタさんから布おもちゃの的当てゲームをプレゼントしてもらい、的を狙ってボールを投げて遊んでいます。

■3歳児

絵本『そらまめくんのべっど』

今月から絵本『そらまめくんのべっど』を読んでいます。春に読んだのを覚えていて、「そらまめくん見つけたね」「えだまめくんも食べたね」と思いだしながら会話も楽しんでいました。そらまめくんの絵本には豆以外にウズラさんも登場します。そこでみんなでウズラさんになって遊んでみました。そらまめくんのベッドの中で卵を温めるシーンが描いてあるのですが、そこには「ぴよ」と鳴き声しかセリフはありません。でもごっこ遊びの中では生まれたひよこは、「何してあそぶぴよ?」「おかあさん、おなかすいたぴよ」「ごはんたべたいぴよ」「あっちであそぶぴよ」「くさたべにいくぴよ」と想像が膨らみます。「お庭にあそびにいくぴよ」と私が言うと、「やったぴよ!」「みんなでおにわいくぴよ～」とお庭へ遊びに行きました。お庭でもやり取りは続いていました。ご飯の時間になり、部屋へ入るように促したいのですが、子どもたちの遊ぶ様子を見ていとなかなか声がかけれません。そこで、「みんな～お腹がすいたからお部屋に入ってご飯食べるぴよ」と言うと、「は～い」とすぐに片付け始めた子ども達。「ぴよ」が効果てきめん。子どもがどんなことをして遊んでいるのか見ていなかったり、遊びを無視して声をかけていたらここまですんなり返事は返って来ていなかったのかもしれない。お家でも片づけを促したいとき、ちょっと子どもの遊びを見守って見てその流れに合わせて声をかけてみるとすんなり片付けしてくれるかもしれませんね。



◆4歳児

絵本『だごだごころころ』 劇遊び

「今日はこの場面をやってみよう」と場面を区切って絵本の世界を再現して劇遊びをしています。毎回違う役を楽しむ子、お気に入りの役があり毎回同じ役をする子と様々です。私たち保育士もまずは、絵本の世界を表現して楽しんでくれることを大切にしています。

■5歳児 『黄金のかもしか』 劇づくり

何度も何度も繰り返し読み、登場人物になって表現して楽しむ中で、子ども達もこの物語に色んな感じ方をするようになりました。最後の欲張りな王様は自分の家来たちにも見捨てられてしまうという結末に対して「家来たちにも助けてもらえず王様がちょっとかわいそうだったな」「欲張りなことしたからしかたないよ」「悪い事をすると自分にもかえってくるから仕方ないと思うよ」とそれぞれの思いを伝えあったりする姿もありました。子ども達のいろんな感じ方を大切にしていきたいと思いました。